

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	文化遺産災害対策小委員会		主 査 名：後藤 治 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会		委員長名：伊藤 毅 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	災害による歴史的建造物や歴史的環境の滅失を防ぐための施策を調査研究する。 ・2011 年度 東日本大震災で被災した歴史的建造物の調査及び復旧支援 ・2012 年度 同 上		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：後藤治 (工学院大学)、副主査：足立裕司 (神戸大学)、幹事：藤田香織 (東京大学)、 稲垣景子 (横浜国立大学)、委員：村上裕道 (兵庫県)、花里利一 (三重大学)、長谷見雄 二・安井昇 (早稲田大学)、河合直人 (工学院大学)、大窪健之 (立命館大学)・益田兼房、 西澤英和 (関西大学)、梅津章子 (文化庁)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2012 年度予算	210,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/c-000/c090-12.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 本年度は、昨年度に続き、東日本大震災で被災した歴史的建造物の調査、 復旧支援を行った。昨年度は、日本建築学会が中心になり進めたが、本年度は、 日本建築家協会が中心になり、学会が協力する形をとった。また、日本建築士会 連合会と協力し、災害で被災した歴史的建造物の復旧支援マニュアルの普及版 (案)を作成した。
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 当初の計画通り、東日本大震災に関わる活動を行った。助成金の獲得の関係 で、開始が 9 月になったため、作業は遅れ気味である。その結果、年度末に計画 していた研究協議会を開催することができなかった。 2. 当初の計画外の活動として、日本建築士会連合会と協力することにより、東 日本大震災によって作成が遅れていたマニュアル作成を進めることができた。ま た、各県の建築士会の主催で、各委員が協力する形で、マニュアルを使った講習 会を開催することができた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 次年度は、マニュアルを完成させ、早期に出版を行いたい。日本建築士会連 合会と協力して作成しているので、出版の形態をどのようにするか確認が必要。 また、マニュアルを使った講習会やセミナーを開催したい。 2. 文化庁の耐震指針の改正や、火災学会による文化庁委託事業の進展等、様々 な活動が進展しているので、情報交換や今後の活動展開を考えるため、研究協議 会・シンポジウム等の開催を急ぎたい。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、
最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出する

こと。